

📖 シリーズ「きょうだいの思い」⑫

高校生活③

高校時代は、共に歩む会の活動を通じて、私と同じようなきょうだいの立場の人、在日朝鮮・韓国人の人、被差別部落出身の人...様々な立場にいる人を初めて知り、たくさんのお逢いに恵まれた。

共に歩む会を中心にサポートしていた先生がいて、それまで私が出会ったことがないような先生だった。

当時、先生の自宅にお邪魔して夜遅くまで話をしたことが何度かある。時に辛口の先生だったが、私の心の奥底にある想いを引き出してくれた。でも若かった私は投げやりな態度で突っぱねたりもした。

きっと先生は私のきょうだいの立場の「しんどい部分」を、鋭く見抜いていたのだろうと思う。

今から7年前、私が子供を通じて出会ったお母さんが在日韓国人三世だった。そのお母さんが、縁のない高槻の土地で同じような在日の人達と交流できる場を探していることを知り、私は共に歩む会の活動を通して『むくげの会』の存在を知っていたので、何年かぶりに先生の自宅へ電話をして尋ねてみた。

私からの突然の電話で、痴呆の母親を介護しているのにも関わらず、先生は二時間近く話をしてくれた。

会話の中で、二児の母親になっている私に『どんな母ちゃんになってるのか楽しみやな』と言った先生の声が、今でも耳に残っている。

7年前といえば、私は三才と一才の子育て真っ只中で、先生に会える余裕がなかった。でもこの時に先生に会っておけば良かったと、とても後悔している。

のちに、先生は癌を患い入院生活を送っていると聞いたが、先生の意向でお見舞いはさせてもらえなかった。

7年前の電話が、先生と最後の会話になってしまった。

4年前の告別式で、それぞれ参列者が先生との思い出話をする中で、ある施設長は『言いたいことがあると突然やって来て、まるで台風のような人だった』と話した。ある教師は『何事においても原理原則を貫く人だった。真夜中でも突然に電話がかかってきて喧嘩をしたことが懐かしい』と笑った。

また、私と同じような形で先生とお逢った人は『先生とのお逢いが無ければ今の私はなかった、先生ありがとう』と言った。

先生は、どこまでも『弱い立場に置かれている人』の味方だった。だからこそ、台風のようなだったり、同僚との喧嘩もあったのだろうと思う。でも人間的な優しさと、温もりを感じられる先生だった。

まえほ通信
まへほつうしん

発行日	2012年6月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



🍆 前穂菜園のお知らせ



今年も前穂菜園の季節がやってまいりました。

ゲストの皆様にも新鮮な野菜をご賞味頂いたり、収穫を楽しんで頂きたく思います。

スクスクと育っていく様子も楽しみながら、収穫を待ちわびております。